

群馬県上野村における小型哺乳類調査

木村敏之（群馬県立自然史博物館）

本調査では群馬県の南西部に位置する多野郡上野村に生息する小型哺乳類（ネズミ類・モグラ類）について捕獲調査を行った。今回の調査では特に村内の生息種及び分布についての基礎データの収集を目的としている。そのため定点の調査地を設定し、その地点において定期的に捕獲調査を実施するのではなく、上野村村内の様々な地点で捕獲調査を実施した。

調査方法及び調査概要

今回の調査ではシャーマントラップを使用して小型哺乳類の捕獲調査を行った。エサはオートミールを主に用いた。各調査では初日にトラップを設置し、翌日に捕獲個体の回収を行った。いずれの捕獲調査も一晩のみの調査である。またごく一部の例外を除き各調査地点では1地点あたり20個のトラップを設置した。捕獲されたネズミ類は種類、性別、体重及び外部形態を計測後、捕獲地点で放逐したが、捕獲された個体のうち死亡個体については標本化し、当館の収蔵資料とした。

前述のように本調査では定点を設定して継続的に捕獲調査を実施するのではなく、村内の様々な地点において捕獲調査を実施した。そのため一部の調査地点を除き、1調査地点につき1回あるいは2回の捕獲調査実施となっている。

調査は2011年～2013年において14回の捕獲調査を実施した。内訳としては2011年の11月及び12月に予備調査を実施し、本調査として2012年4月から2013年4月を実施した（2012年12月までは毎月1回、2013年1月から4月までは2ヶ月に1回）。さらに追加調査として2013年8月と10月に調査を実施した。これらの調査を通して上野村全域の40地点（のべ57地点）において捕獲調査を行った。

調査結果及び議論

今回の調査全体でネズミ類112個体（アカネズミ *Apodemus speciosus* 68個体、ヒメネズミ *Apodemus argenteus* 39個体、ハタネズミ類 *Microtinae* 5個体）及びモグラ類（ヒミズ）4個体が捕獲された。捕獲された個体の内訳では、アカネズミが最も多く、全体の59%をしめる。次いで捕獲個体数が多いのがヒメネズミで全体の34%である。本調査における設置トラップ数は1195で、捕獲率は9.7%となる。

それぞれの調査月ごとの捕獲結果について図に示す。ただし捕獲個体数の傾向については、前述のように今回の調査では一部地点を除いて各調査ごとに捕獲地点が異なるため、大まかな傾向を示すことは考えられるものの単純に捕獲個体数の増減を議論することはできない。なお設置トラップ数による影響を除くため、図では捕獲数は100トラップごとの捕獲数に規格化して示してある。

それぞれのネズミ類の捕獲時期注目すると、アカネズミ及びヒメネズミについては通年で捕獲された。その一方でハタネズミ類については捕獲個体数も非常に少ないが、捕獲されたのは2012年9月、12月及び2013年4月の調査のみである。またヒミズについては、捕獲数自体が非常に少ないが、捕獲されたのは2012年10月及び2013

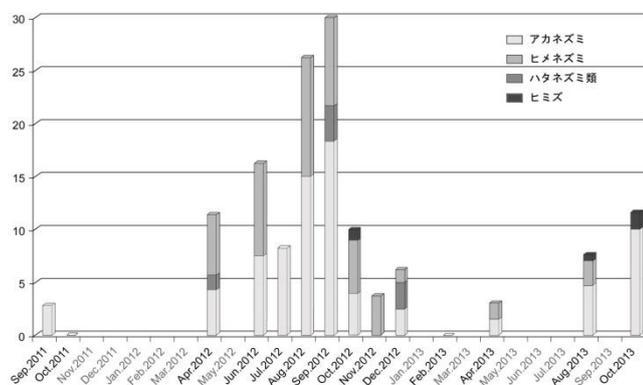
年 8 月， 10 月の調査にのみである。

前述のように図の結果は単純には各月毎の比較を行うことはできないが， 継続して調査を実施した 2012 年 4 月以降では 8 月及び 9 月の捕獲数が顕著に多い（それぞれ 100 トラップあたりで 26.3 個体， 30.0 個体）。 春期から夏期へと急激に捕獲個体数は増加し， 秋期以降に急減する傾向が見られ， 特に冬期の捕獲個体数の減少が顕著である。 また 2012 年の捕獲数は， 2011 年及び 2013 年における同月の調査における捕獲数に比較して顕著に多い。 ただし例外的に 2013 年 10 月は前年同月の調査よりも高い捕獲率である。

このような捕獲傾向について， 同一地点で複数回の捕獲調査を実施した結果を基に検討を行う。 冬期の捕獲個体数の顕著な減少について， 同一地点で夏期及び冬期に実施した調査結果をもとに議論すると， 今回の調査で検討可能な 4 地点の調査結果においては， いずれも冬期の捕獲率が顕著に低い。 捕獲されるネズミ類についてはいずれの地点でもアカネズミ及びヒメネズミであり， 大きな違いは見られない。

次に同一の調査地点・調査時期において調査年毎の違いについて検討を行う。 今回の調査では春期（上野村南西部の野栗沢周辺）では 3 地点， 夏期（上野村北部）では 5 地点， 秋期（上野村西部の矢弓沢林道周辺）では 5 地点（について検討が可能である。 上野村南西部の野栗沢周辺及び上野村北部の調査地点では 2012 年に比較して， 顕著に 2013 年の捕獲個体数の減少傾向がいずれの調査地点でも見られた。 ただし上野村南西部（矢弓沢林道沿いの複数地点）では， 2012 年に比較して 2013 年はほぼ同じか， むしろ 3 地点では捕獲率の増加が見られた。 あくまでも限られた捕獲個体数・捕獲地点での調査結果であるため， 十分な議論を行うことはできないが， 年毎に小型哺乳類の個体群動態は顕著な変動が見られること及び小型哺乳類の各個体群ごとの個体群動態には違いが見られる可能性が示唆された。

群馬県では平成 18 年度にネズミ類の大量発生があり， その後当館では県内のいくつかの地点でネズミ類の個体群動態について調査を行ってきた。 上記の様に今回の上野村での調査でも捕獲年ごとの変動を検討するため， いくつかの調査地点では 2012 年及び 2013 年の同時期に捕獲調査を実施した。 その結果， 上野村南西部の野栗沢周辺及び上野村北部の調査地点では 2012 年に比較して， 顕著に 2013 年の捕獲個体数の減少傾向がいずれの調査地点でも見られた。 ただし上野村南西部では， 2012 年に比較して 2013 年はほぼ同じか， むしろ捕獲率の増加が見られた。 ただし現状では限られた捕獲個体数・捕獲地点での調査結果であるため十分な議論を行うことはできない。 今後， 議論を進める上でも継続的なデータの蓄積を進める必要がある。



本調査における捕獲個体（100 トラップあたりの捕獲数）

キーワード：群馬県多野郡上野村，ネズミ類，モグラ類，シャーマントラップ